

# 卒業生アンケート及び就職先アンケート結果分析

令和6年度

山口学芸大学 自己点検・評価委員会

# 卒業生アンケート及び就職先アンケート結果分析(案)

山口学芸大学・山口芸術短期大学 IR 部会

## 1. 背景と目的

本学では、3つのポリシー(ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー)にもとづき、授業科目レベル、学部・学科(教育課程)レベル、大学(機関)レベルの3段階で、学修成果・教育成果の達成状況を検証する方法と学修成果の評価に関する実施方針(アセスメントプラン)とを定めている。

本報告では、アセスメントプランの評価指標のうち「卒業生アンケート」「就職先アンケート」により学修成果を測定・検証している。とりわけ「卒業生アンケート」「就職先アンケート」の定量分析に加え、自由記述部を分析し、課題や原因について考察を深め、本学の教育のPDCAに基づく教育改善に活かすことを目的としている。

## 2. アンケート調査の概要

卒業生に調査票にアクセスできる二次元コードを郵送し、就職先には卒業生を通じて依頼した。アンケートを回収し、回答結果を分析した。

### ① 対象

卒業生：令和4年度(令和5年3月)卒業 13期生 85名

就職先：幼稚園、保育所、認定こども園、施設、小学校、中学校、高等学校、  
特別支援学校、民間企業、教育職保育職以外の公務員

### ② 時期

令和5年9月

### ③ 内容(卒業生)

#### ○基本属性

1. 卒業時の年度

2. 専攻

( 初等幼児教育専攻・中等教育専攻 )

3. 現在の職業・進学先

就職先( 幼稚園・保育所・認定こども園・施設・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・  
民間企業・教育職保育職以外の公務員・その他 )

進学先( 大学院・専門学校・その他 )

質問1. 山口学芸大学で学んだことについて、どの程度満足していますか?(選択式)

質問2. 山口学芸大学での教育活動を通じて Q1~Q14 はどの程度身に付きましたか?(選択式:卒業生に求める資質・能力として、以下の Q1~Q14 までの 14 項目を設定。調査結

果の記載において、《 》内の簡略表現を用いている。）

- Q1. 「良き社会人としての態度、倫理観」 《倫理観》
- Q2. 「事物の美しさやよさを大切にする姿勢」 《感性》
- Q3. 「他者の感性や思いを理解する力」 《他者理解》
- Q4. 「他者と協力して物事を遂行する能力」 《協調性》
- Q5. 「創造的発想力」 《創造的発想》
- Q6. 「幅広い教養」 《幅広い教養》
- Q7. 「専門的知識」 《専門的知識》
- Q8. 「問題解決能力(自ら調べ、探究し、結論を導く力)」 《問題解決》
- Q9. 「ICTを活用する力」 《ICT活用》
- Q10. 「外国語を通じたコミュニケーション力」 《外国語対応》
- Q11. 「多様性を受け入れる能力」 《多様性受容》
- Q12. 「対象者(子ども・保護者・顧客等)への対応力」 《関係者対応》
- Q13. 「表現活動を指導する力」 《表現指導》
- Q14. 「子どもを良い方向へと導く力、指導力」 《子ども指導》

質問3. 山口学芸大学で身につけた質問 2 の各項目は、現在の仕事においてどの程度役に立っていると思いますか。(選択式)

質問4. 社会人として必要だと感じたこと、大学時代に身につけておけばよかったと思うことを挙げてください。(自由記述式)

質問5. 社会人としての経験を踏まえ、改めて大学時代を振り返った時に、有意義だったと思うこと(大学の教育活動の他、ボランティア活動やサークル活動なども含む)を挙げてください。(自由記述式)

#### ④ 内容(就職先)

##### ○基礎項目

1. 採用先(該当箇所を○で囲んでください)

( 幼稚園・保育所・認定こども園・施設・小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・民間企業・教育職保育職以外の公務員・その他 )

2. 本学卒業生の勤務状況、あてはまるものすべてにチェックをしてください。

採用 1 年目の者が勤務している。

採用 2 年目以上の者が勤務している。

質問1. 本アンケートを持参した本学卒業生についてお尋ねします。その人物の勤務状況としてどの程度満足していただきましたでしょうか。(選択式)

質問2. 本山口学芸大学では以下の項目を重視して人材育成に取り組んでおります。本学卒業生は、それらの資質能力が身につけていると思われますか。(選択式:項目は前記14項目と同じ)

質問3. 山口学芸大学を卒業した学生(本アンケートを依頼した者、加えてあなたがこれまで出会ったことのある本学卒業生を含む)について、どのようなイメージをお持ちですか。(自由回答式)

質問4. 社会人として必要なこと、大学時代に身につけておいてほしいとおもわれることについて入力してください。(自由回答式)

### ⑤ 回収率

卒業生: 60.0%(51名/85名)

就職先: 32.9%(28名/85名) \*「採用1年目の者が勤務している」のみ\*

## 3. アンケート結果及び分析(選択式)

### 3.1 卒業生(質問1)

集計結果を図1に示す。

「おおいに満足している」あるいは「おおむね満足している」と回答した割合の合計は70.6%である。

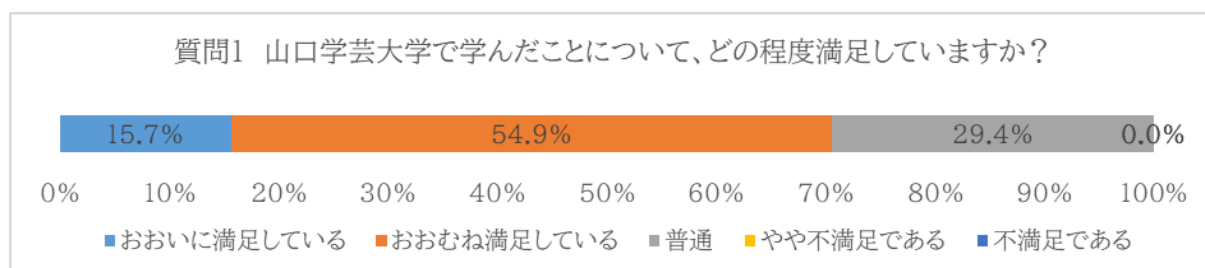


図1 集計結果(卒業生質問1)

### 3.2 卒業生(質問2)

集計結果を図2に示す。

「おおいに満足している」あるいは「おおむね満足している」と回答した割合の合計が高い項目は、「協調性」が90.2%、「他者理解」82.4%、「倫理観」72.5%であり、「表現指導」68.6%、「専門的知識」64.7%と続く。

一方、「あまり身につかなかった」あるいは「身につかなかった」と回答した割合が高い項目は、「ICT活用」が35.3%と高く、次いで「外国語対応」が21.6%である。

### 3.3 卒業生(質問3)

集計結果を図3に示す。

「役に立っている」あるいは「やや役に立っている」と回答した割合の合計が高い項目は、「他者理解」と「協調性」が同じく80.4%、「倫理観」72.5%であり、「関係者対応」68.6%、「専門的知識」66.7%と続く。

一方、「あまり役に立っていない」あるいは「役に立っていない」と回答した割合が高い項目は、「ICT活用」と「外国語対応」が同じく21.6%であり、次いで「関係者対応」が9.8%である。

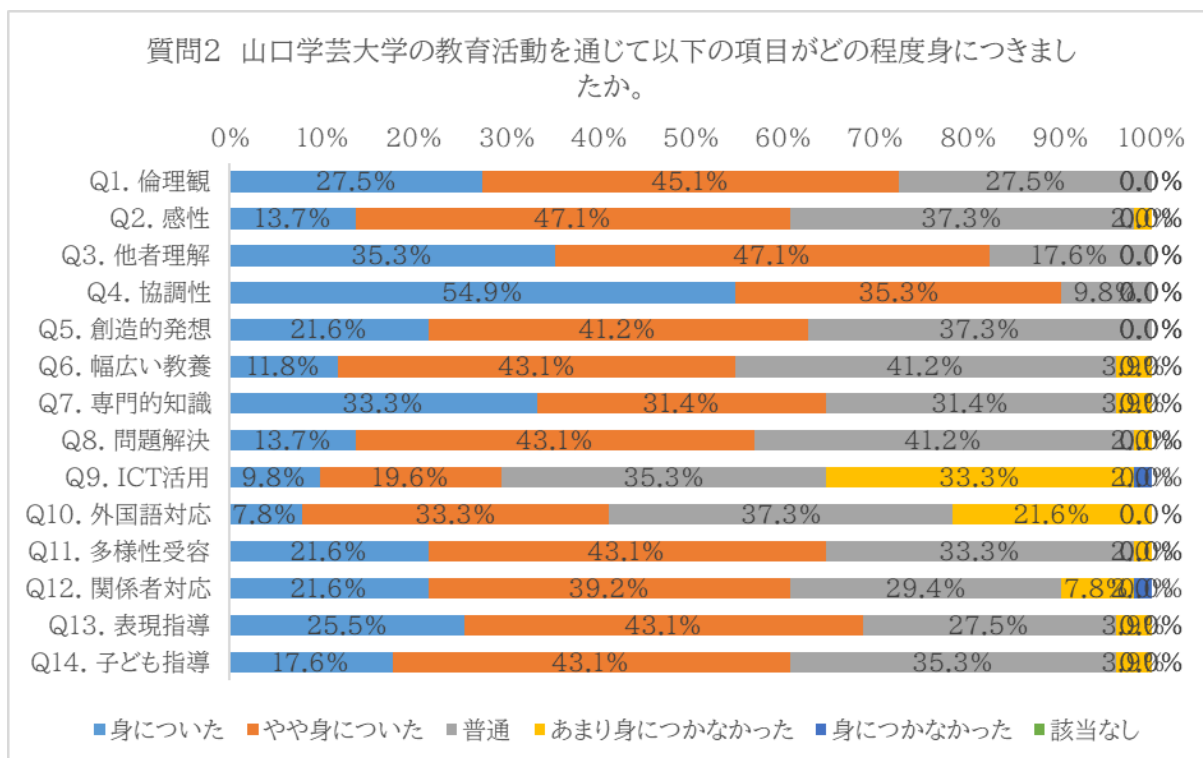


図2 集計結果(卒業生質問2)

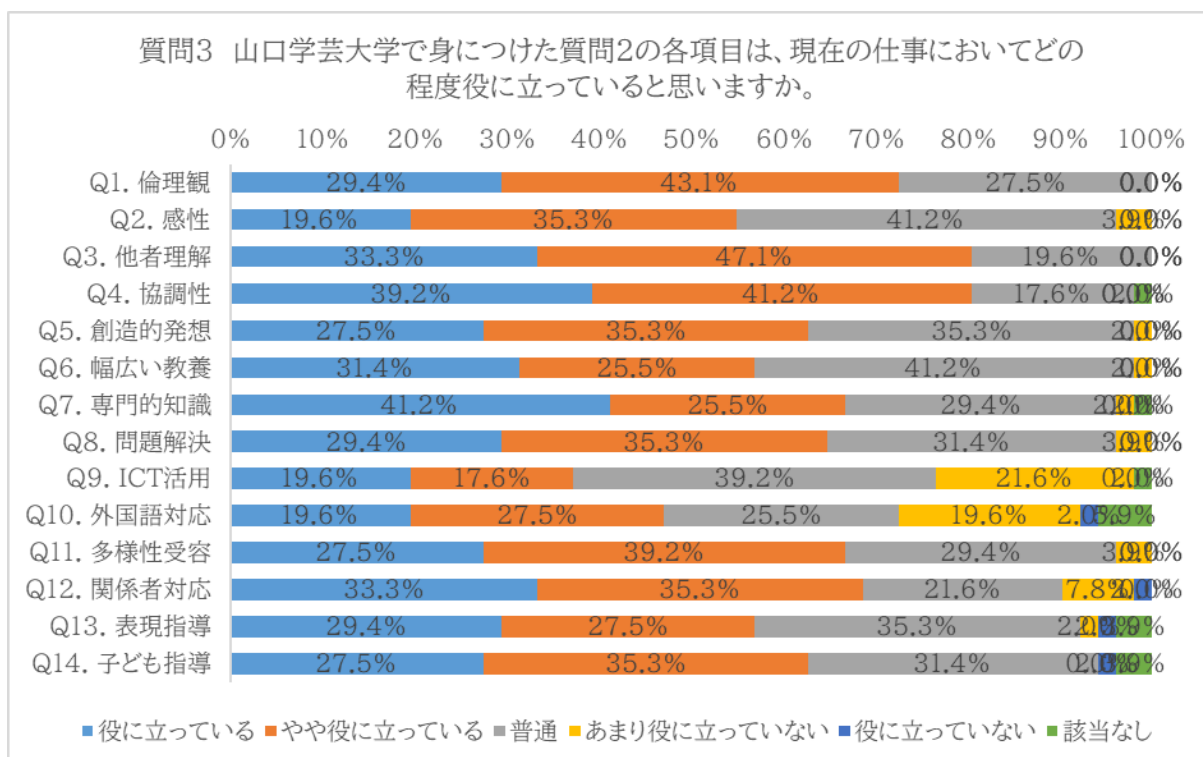


図3 集計結果(卒業生質問3)

### 3.4 就職先(質問1)

集計結果を図4に示す。

「おおいに満足している」あるいは「おおむね満足している」と回答した割合の合計は 67.9%である。

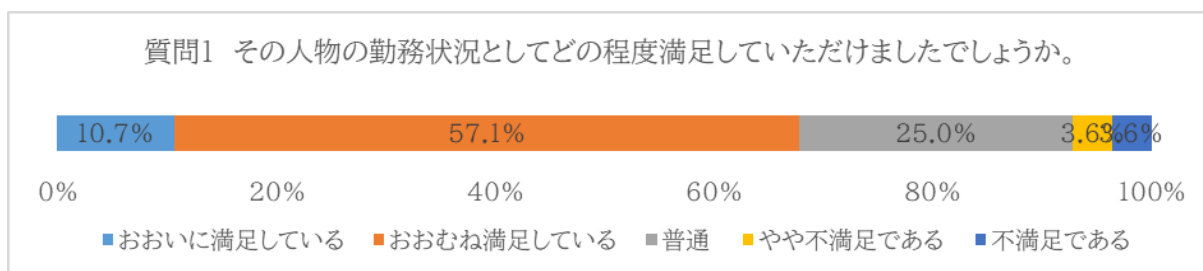


図4 集計結果(就職先質問1)

### 3.5 就職先(質問2)

集計結果を図5に示す。

「おおいに備わっている」あるいは「ある程度備わっている」と回答した割合の合計が高い項目は、「他者理解」と「協調性」が同じく71.4%、次いで「倫理観」67.9%である。

一方、「あまり備わっていない」あるいは「備わっていない」と回答した割合が高い項目は、「問題解決」17.9%、「表現指導」14.3%、続いて「創造的発想」「幅広い教養」「専門的知識」「関係者対応」が同じく10.7%である。

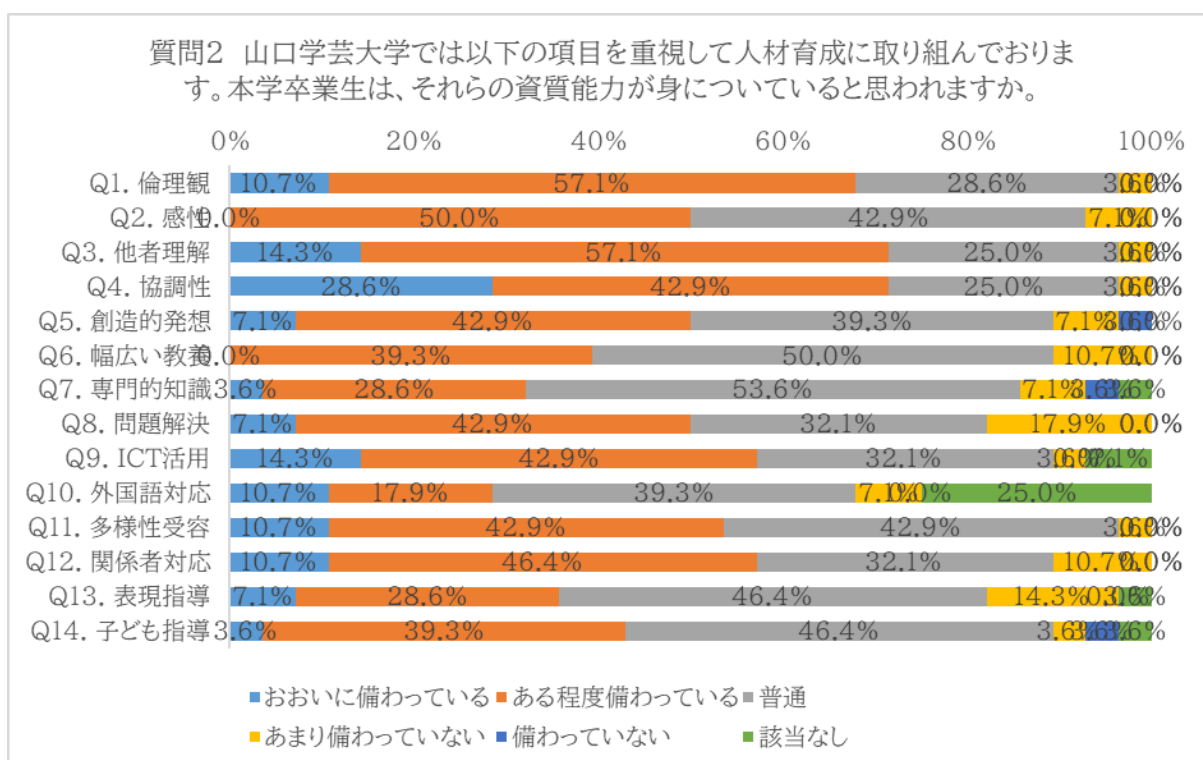


図5 集計結果(就職先質問2)

### 3.6 アンケート結果分析(選択式)

卒業生アンケートの質問2と就職先評価アンケートの質問2について、リッカート尺度の平均値を図6に示す。全14項目の平均値は卒業生が3.78、就職先が3.42である。

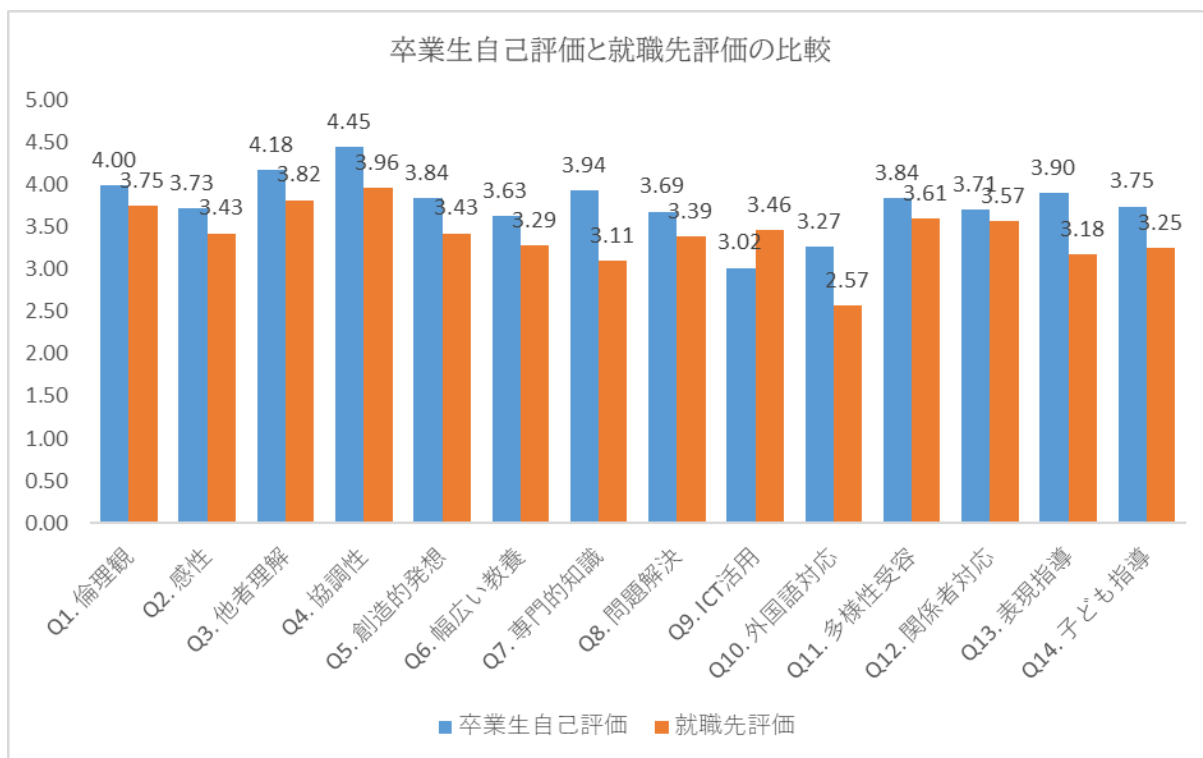


図6 卒業生自己評価と就職先評価の比較

卒業生は「倫理観」「他者理解」「協調性」「専門的知識」を肯定的に認識し、「ICT 活用」と「外国語対応」を課題と認識している。

一方、就職先は卒業生と同じく、「倫理観」「他者理解」「協調性」を肯定的に捉え、「問題解決」「表現指導」を課題ととらえている。

#### 4. アンケート結果分析(自由記述式)

##### 4.1 卒業生

卒業生アンケート自由記述欄の分析結果から、卒業生は社会人としての基本的なスキル、特に「マナー」「コミュニケーション能力」「ICT 活用能力」を重視しており、これらが職務に直結する重要な要素と認識している。

大学時代の実務的な経験(実習やボランティア活動)、学内での模擬授業やグループワークを通じて教育現場での対応力、協力やコミュニケーション力を高めたことが有意義だったと感じている卒業生が多く、これらが現在の仕事に役立っていることがわかる。また、時間管理や自己実現に向けた活動も、大学生活の重要な経験として捉えられている。

##### 4.2 就職先

就職先アンケート自由記述欄の分析結果から、山口学芸大学の卒業生に対する就職先の評価は、基礎学力に一定の課題はあるとしつつも、素直で明るく協調性があり、責任感を持って前向きかつ真摯に取り組む姿勢を持つとするものである。ただし小学校以上への就職者は個人差が大きい。

就職先から特に必要とされた項目は、コミュニケーション能力と社会人としての最低限度の態度やマナーであり、他にも、分からないことを質問し、スケジュール管理や整理整頓を行う能力も求められてい

る。教育に関する技術面においても課題はあがるものの、より重点が置かれていることは、社会人としての基礎的能力と就職してから主体的かつ謙虚に学ぶ人間性であると考えられる。

## 5. 結論

本学の学生はICTを活用する力や外国語を通じたコミュニケーション力を課題と認識しつつも、学生時代の多様な経験を活かし、仕事を通して真摯に社会に貢献しようとしている。

人としての根幹を成す持ち前の素直さや物事に取り組む姿勢があり、向上心をもって学生生活を送ることが期待される。より豊かな教養と専門的知識を身に着け、さらに様々な社会経験の中から得られる発想力と実践力に磨きをかければ、自ずと子ども・保護者・顧客等への対応力と問題解決能力を体得することができ、未来への扉を自ら開くことができる。

以上を踏まえ、一層の授業改善に取り組みたい。